

ひ・う・い・え

(一財) 鳥取県労福協 第317号

題字 柴山抱海 書

年頭あいさつ

一般財団法人鳥取県労働者福祉協議会

理事長 本川 博孝

あけましておめでとうございます。

ご家族お揃いで初春をお迎えになられたこと、お慶び申し上げます。

旧年中は、鳥取県労福協運動に対しまして、ご理解とご協力を頂き心より感謝申し上げます。

昨年、鳥取県労福協は結成から50年が経過いたしました。鳥取県労福協は結成以来、すべての働く人の幸せと豊かさをめざし労働者福祉運動を進めてきました。

とりわけ、この一〇年間は、労働者福祉に関する8事業（広報誌発行、労働者福祉に関する調査・研究、研修会、労働者美術展の実施、囲碁・将棋大会の実施、スポーツ祭典の実施、労福協祭りの実施、児童・福祉施設に関する事業）を基本に、社会的連帯活動として、「ライフサポートセンター」での生活総合支援、「労働相談所みなくる」での労働・雇用環境の改善に向けた活動など、関係団体と連携して様々な取り組みを進めてきました。

そして今、これまでの運動を振り返り、労福協の理念である「福祉はひとつ」を踏まえ、貧困や社会的排除がなく、多様なセーフティーネットを構築し、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらせる社会の実現に向け活動を進めなければならないと強く意識しています。

そのためにも、労働組合と協同組合が連携・協同し、共助の輪を広げ、地域の様々なネットワークで、支え助け合う、地域共生社会の実現に向けて活動を進めていきます。

お互いが信頼しあい、相手を認め、目先の便利さや快楽追及が優先することなく、子どもたちの将来の生活環境を豊かなものにしていくために力を注いでいきます。引き続き、みなさんと一緒に全力で活動していくことをお誓い申し上げございさつといたします。



第10回鳥取県労働・福祉事業四団体研修会を開催

第10回鳥取県労働・福祉事業四団体研修会を開催しました。

「近年多発する異常気象に潜む身近なリスク」をテーマとして、鳥取市危機管理課より講師をお招きご講演いただきました。

また、講演終了後にVR（仮想現実）による災害疑似体験を実施し大好評でした。



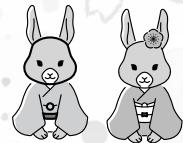
年頭あいさつ

一般財団法人鳥取県労働者福祉協議会

理事長 本川 博孝



新年ご挨拶



日本労働組合総連合会鳥取県連合会
会長 田中 穂

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、ご家族お揃いで新春をお迎えになられたこととお慶びを申し上げます。

日頃より連合鳥取の運動に対する、ご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。

さて、歴史的な円安・物価上昇、コロナ禍の「三重苦」が、多くの働く仲間とその家族を直撃し、雇用と賃金・労働条件が脅かされ続けています。一方で、社会的セーフティネットの脆弱性もより浮き彫りになりました。このような中、コロナ禍の見えない感染リスクと向き合いながら、それぞれの立場で、大変なご苦労・ご奮闘を続けておられるすべての皆さまに敬意を表します。

一方、世界経済は、長期化するウクライナ侵攻など不安定な国際情勢、先進国を中心とした金融引き締めなどにより、先行きに不透明感が漂っています。

私たち県内を取り巻く環境や生活も、悪化していると言わざるを得ません。「超少子高齢化・人口減少問題」「公共交通の存続危機」「厳しい地方財政」「コロナ禍で露呈した保健衛生の脆弱性」「甚大化する自然災害」など、すべてが労働者・生活者に直結する課題であり社会の基盤が揺らいでいます。今こそ、労働者福祉運動が、働く仲間に寄り添い、「必ずそばにいる存在」としての真価が問われています。

すべての働く仲間と職場をまもり、つながり、集団的労使関係の拡大と追求を通じて、新たな活力を創り出していく取り組みにいかなければなりません。労働者福祉運動の重要性を知る私たちこそが、先頭に立って力強く牽引していくことが重要であります。

加えて、こういう時だからこそ労働者福祉事業四団体がさらに連携を強化し、コロナ禍を克服するとともに、今後の不確実な環境変化に適応しつつ、ジェンダー平等、人権、一人ひとりの多様性が尊重され誰もが将来に希望の持てる社会、そして地域が中心となり支え合い・助け合いが日常に根付いた社会へと結びつけていかなければなりません。

連合鳥取は、一人でも多くの人の声をしっかりと受け止め、みんなで力を合わせ心ひとつに運動を前進させていきますので、皆さまのご支援・ご協力をお願い致します。

本年も連合鳥取に対する一層のご支援をお願いするとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。



中国労働金庫鳥取県営業本部

本部長 西村 裕生

あけましておめでとうございます。

2023年の新年をご家族とともに健やかに迎えられたこととお慶び申しあげます。

新型コロナウイルス感染症は、一向に終息する気配がありません。また、ウクライナ紛争も全世界に暗い影を落としています。

こうした状況下で中国労働金庫は、今年第7期中期経営計画最終年を迎えます。『全力お役立ち宣言』をスローガンに、「ろうきんだからできること」を皆様にお伝えして

きたつもりですが、いかがだったでしょうか。

統合20周年を迎える今年、もう一度『ろうきんの理念』に立ち返り、働く人の夢と共感を創造する福祉金融機関として、労働者の生活に寄り添った「お役立ち」ができるか問い合わせ直し、未来につながる「お役立ち」ができるよう、役職員一丸となって汗をかいてまいりたいと思います。

本年が、皆様にとってより良い年となりますようお祈り申しあげます。



こくみん共済 coop 鳥取推進本部

本部長 松崎 浩哉

新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申しあげます。

旧年中は、こくみん共済coopの運動に対しまして、特段のご理解とご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の蔓延が3年近くも継続し、いまだ終息がみえておらず、まだまだこの闇いは継続しそうな状況となっております。

さらに、ウクライナ情勢に起因する、エネルギー問題や物価上昇、安全保障問題も予断を許さない状況となっております。

このような情勢に加えて、多発する自然災害など、私たちの暮らしを取り巻く環境は厳しさと難しさを増しているといえます。

私たちは、組合員のいざという時に備え、お役立ち発想と共創活動にデジタル技術を取り入れた「新しいたすけあい」の創造と実践に挑戦し、SDGsの「誰一人取り残さない」社会づくりに取り組むことで、組合員の皆さんに寄り添い、お役に立てるこくみん共済coopであり続けるよう、役職員一丸となって取り組むことをお約束いたします。

2023年が、早期に新型コロナウイルス感染症が終息し、皆さまにとって明るく、実り多い1年となりますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



鳥取県生活協同組合

代表理事 理事長 井上 約

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新しい年を健やかにお迎えになられたことと謹んでお慶び申しあげます。旧年中は、弊組の事業や活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申しあげます。

昨年はロシアによるウクライナ侵攻があり、例年にも増して平和や環境、エネルギー・食糧、また人権問題などを考えた年となりました。また新型コロナウイルス感染症の拡大を機に世界は意識する、しないに関わらず大きくつながっていることを再認識させられています。自己都合や自國主義的な考え方や行動ではなく、生協の基本理念である「一人は万人のために、万人は一人のために」の精神に今一度立ち、自分の暮らしや生協としての事業・活動に取り組んでいく必要があると感じています。また同時に「労働者とその家族の福利厚生の増進を図り、健

康で文化的な生活を営むことができる環境づくり」をめざす鳥取県労働者福祉協議会に結集する諸団体の皆様との連携も一層深めて参りたいと考えています。

年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



鳥取医療生活協同組合

組合長理事 竹内 勤

新年あけましておめでとうございます。旧年中は鳥取医療生協の活動にご理解、ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて昨年は、2月のロシアによるウクライナ侵略を契機に世界の軍事的緊張が高まり、核兵器使用まで取り沙汰されるような危険な動きが強まりました。戦争は長期化の様相を呈しており、世界の平和や人々を取り巻く状況は不確実性を深めています。

岸田政権は、このような情勢の中、防衛費GDPの2%へ増額、反撃能力保有などで大軍拡路線を突き進んでいます。

一方、国民生活においては、円安、物価高騰が続き国民生活が困窮する中、政府は10月1日に、75歳以上の医療費窓口負担2割化を強行しました。さらに介護保険制度の改悪の論議を進めており、社会保障費の削減政策は一向に改まる様子は見られません。

コロナ禍も第7波～第8波と感染の収束が見通せませんが、感染の制御と経済や生活の両立が求められているところです。

鳥取医療生協は、本年も国民のいのちと暮らしを守るために、事業を通じて奮闘して行きたいと考えます。

皆さまにとって良き年になるよう祈念して、新年のごあいさつといたします。



鳥取県労働者福祉協議会東部支部

支部長 中村 敦司

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、労福協東部支部の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年、新型コロナウイルス感染症は第八波となり、ますます感染者が増加している状況の中、働き方改革も相まって、労働環境も変わらざるを得ない状況にあるのではないかでしょうか。

そのような中、「労福協の理念」すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・共同で安心・共生の福祉社会をつくるために、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、まだまださまざまな活動が制限されることも考えられますが、新しい取り組みや創意工夫を凝らすなどして、労福協運動を止めることなくこの難局を乗り越えていきたいと考えております。

本年も皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、この一年が皆様にとって素晴らしい一年となりますよう祈念いたします。



鳥取県労働者福祉協議会中部支部

支部長 久米 佑介

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は労福協中部支部の活動にご理解とご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。さて、この3年間にもわたるコロナウイルス感染症との戦いは、一時落ち着いたように見えましたが、いまだ抜本的な収束とは至っておりません。その間にもこの日本社会では、社会的に弱い立場の方々こそより厳しい生活を強いられ、格差や貧困もさらに拡大している状況

となっております。

このような厳しい情勢の中にあって、労福協が担う役割は以前よりもさらに大きくなっているように感じます。人は一人の力ではできることに限りがありますが、助け合い、団結することで大きな力を発揮できるものです。わたしたち組合員同士が、今よりもより強い絆を持ち、今後に向けて一層強い組織作りができるように、取り組んで参りたいと思います。

皆さまにとって2023年が、幸多き年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



鳥取県労働者福祉協議会西部支部

支部長 加藤 耕一

新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年もまたコロナに悩まされた一年であったと思います。そんな中行われたサッカーワールドカップにおける日本代表の奮闘に多くの方が勇気づけられたのではないでしょうか。特に無敵艦隊と呼ばれるスペイン戦での勝ち越しゴールをアシストした三苫選手の諦めない姿勢に多くの称賛が寄せられました。そしてゴールを決めた田中選手との絆。必ずボールが来ると信じて疑わなかったからこそ生まれたゴールでした。

私たちはどんな困難な状況であっても、「やれる」と信じて諦めないことの大切さを再認識できました。そして、同じ目標を持って仲間と一緒に進んでいくことの素晴らしさを感じることができました。

サッカー日本代表に負けないように私たち労福協も多くの方々を勇気づけていかなければなりません。人と人がつながり、絆が大切にされるぬくもりのある福祉社会をめざして一緒に進んでいきましょう。

結びとなります、皆様にとって、2023年が「プラボーン」な年となりますようご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。



鳥取県中小企業労働相談所みなくる

管理運営マネージャー 鈴木 直子

新年あけましておめでとうございます。旧年中は鳥取県中小企業労働相談所「みなくる」への事業に対し、ご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

さて、昨年みなくるでは、アフターコロナ事業として様々な取り組みを行ってまいりました。県立ハローワークやポリテクセンターへ相談員が出向く『出張相談』、5月と10月には平日の開所時間を延長して行った『夕焼けホットライン—お仕事帰りの電話労働相談—』、大型商業施設で県立ハローワークと合同で行った『合同相談会&PR活動』など、働く皆様と積極的に会う機会を増やし、労働に関する啓発活動を行った1年でした。活動を通じて、相談窓口である『みなくる』の認知度がまだまだ不十分であることを実感しつつも、こちらから話しかければ、困っていることや疑問に思っていることなどを話してください、「気軽に相談してもいいんだな」と手ごたえを感じた機会でもありました。

物価高騰や雇用不安など、今後も働く人の悩みや不安が尽きないと思われますので、引き続き積極的な啓発活動を行い、「みなくるに相談して良かった」と言っていただけるようなみなくるを作っていくみたいと思います。

引き続きご支援ご協力ををお願いすると共に、今年がより良い一年になることを祈念して、新年のご挨拶といたします。



あけまして
おめでとうござります

本年もよろしくお願ひ申し上げます

二〇一三年 元日

はたらくあなたの、
いちばんそばに。



こくみん共済 NEWS

私のまちの7才の交通安全ハザードマップ

金沢大学 藤生准教授と共同で「私のまちの7才の交通安全ハザードマップ」を開発しました。

お出かけ前に危ない場所やより安全な道を調べることで、皆さまの安心安全なお出かけをサポートします。

2022年9月には、利用者による投稿が可能になりました。

お子さまと一緒にぜひご活用ください。

投稿で
情報共有!



検索ボックスに住所や建物名を入力すると、その周辺の事故情報がマップ上に表示されます。



身近にある「危ない場所」や「交通安全に関する取り組みが行われている場所」を投稿し、利用者全体で共有することができます。

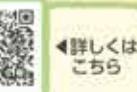


私のまちの7才の交通安全ハザードマップについて
詳しくはこちらから▶



7才の交通安全プロジェクト

<https://www.zenrosai.coop/anshin/7pj/>



詳しくは
こちら

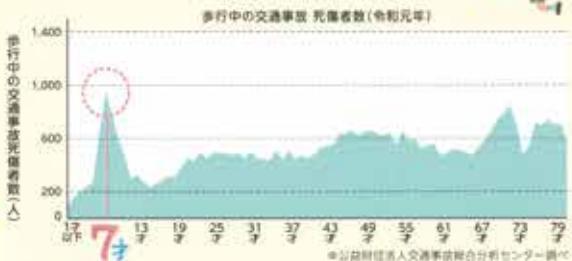


未来ある子どもたちを交通事故から守りたい

小学生になり友達も増え、行動範囲もぐっと広がる7才。

しかし、大人に比べて目線が低く、まだ注意力も十分に育まれていない7才の子どもたちは、他の年齢に比べて突出して交通事故に遭いやすいというデータがあります（※右図参照）

私たちこくみん共済 coop は、「未来ある子どもたちを交通事故から守りたい」という思いから、みんなで子どもたちを交通事故から守っていく「7才の交通安全プロジェクト」に取り組んでいます。



横断旗寄贈の取り組み



カーライフを応援する、頼れる補償
マイカー共済

自動車保険会社

こくみん共済 coop は「7才の交通安全プロジェクト」の取り組みのひとつとして、マイカー共済のお見積もり1件につき横断旗1本を全国の児童館をはじめ、小学校、交通安全協会等へ寄贈してきました。あなたもぜひ、この取り組みにご協力ください。

お見積もり方法

所属する団体またはこくみん共済 coop 担当者にご依頼ください。

公式キャラクター ピットくん

たすけあいから生まれた保障の生協です。
「こくみん共済 coop」は世利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。
この賛助に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

お問い合わせ番号 891213 | 90c222073

東部支所
共済ショップ 鳥取店
〒680-0846 鳥取市駒町14
☎ 0857-22-8234

東部支所
共済ショップ 倉吉店
〒682-0804 倉吉市東昭和町286-2
☎ 0858-23-2855

西部支所
共済ショップ 米子店
〒683-0067 米子市東町189-2
☎ 0859-22-4133



鳥取県労働者福祉協議会

2022年10月28日（金）にホテルニューオータニ鳥取で、「鳥取県労働者福祉協議会結成50周年記念祝賀会」を開催いたしました。鳥取県平井知事、中央労福協南部事務局長、連合鳥取田中会長など来賓を含め62名の出席がありました。

鳥取県労福協は、1972年11月17日（昭和47年）に「鳥取県福祉対策協議会」として結成されました。当時の規約の目的は「鳥取県における労働者の福祉活動を総合的に推進し、民主的運営により関係団体間における福祉活動の連絡調整を図ると共に、労働者福祉に関する事項すべてについての調査、研究を行い、労働者福祉の増進と社会保障確立に寄与することを目的とする」とあります。

その後、1973年に「鳥取県労働者福祉協議会」へ改称し、1980年に法人格を取得し、2013年には一般財団法人へ移行を行いました。

この間、労働者スポーツ祭典、勤労者美術展、囲碁・将棋大会、労福協まつりなどの文化・体育・交流事業や街頭、職域、諸団体のカンパ活動、寄付金等によって交通遺児への支援や子ども育成にかかる施設への寄付活動は引き継がれてきています。

また、鳥取県に対して、労働者が安心して生活していくために必要な制度の導入や改善を求めた自治体要請行動も勤労者福祉要請行動として継続されています。

時代の変遷とともに社会問題も変化することで、労福協運動も変化してきましたが、「福祉はひとつ」という労福協の原点を大切にし、労働運動と労働者福祉事業をはじめ、行政、消費者運動、NPO、市民運動などそれぞれの多様性を認め合いながら「つながる運動」を広げて新しい社会や時代を切り拓いていきたいと思っています。鳥取県労福協の運動に引き続きのご支援・ご協力をお願い致します。



ご来賓挨拶



記念アトラクション 因幡の傘踊り

結成50周年記念祝賀会を開催



主催者挨拶 本川理事長



乾杯



祝賀会の様子



たくさんのお花をいただきました

50周年記念誌と記念品
(ウクライナ支援ボトル)

西部労福協

第40回研究集会を開催「平和で安心して働きくらせる持続可能な社会を！」



2022年11月10日（木）にワークピア広島において、西部労福協「第40回研究集会」が開催され、鳥取県労福協からは、西村副理事長、重村専務理事、吉田東部支部事務局長の3名が参加しました。

研究テーマは、「平和で安心して働きくらせる持続可能な社会を！」をメインスローガンとして、中央労福協の南部事務局長より「奨学金制度改善・教育費負担軽減」、広島県立大学木谷教授より「労働者福祉としての働き方改革～感染症リスク社会における働きがいとは～」の講演を受講しました。

南部事務局長は、奨学金制度改善に関する中央労福協のこれまでの取り組みと課題、労福協がめざす2030年ビジョンについて講演されました。

木谷教授は「ワークライフバランス」と「働き方改革」の関係を示され、これから労働者福祉は、働く人の達成感を高め「働きがい」ある社会をめざしていくことが大切であると述べられました。



鳥取県労福協

第33回 囲碁・将棋大会を開催します！

みなさんのご参加お待ちしています!!



開催日時

2023年2月12日（日）受付10時

開催場所

「まなびタウンとうはく」東伯郡琴浦町徳万266-5（浦安駅東隣）

参加費

無料

参加資格

県内勤労者の団体（労働組合・企業単位及び事業団体等）で、原則としてアマチュアであること、OBの参加も可能です。

*鳥取県労福協のホームページより申込書がプリントアウトできますのでご利用ください。



2019年度 第30回大会の様子

==== 鳥取県の最低賃金 ====

■地域別最低賃金

最低賃金の名称	時間額	発効年月日
鳥取県最低賃金	854円	令和4年10月6日

■特定（産業別）最低賃金

最低賃金の名称	時間額	発効年月日
鳥取県電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金	859円	令和4年12月17日

詳しくは、鳥取労働局労働基準部賃金室(0857-29-1705) 又は最寄りの労働基準監督署にお問い合わせ下さい。

発行責任者 本川博孝
発行日 二〇二三年一月
編集責任者 重村和光
発行 鳥取市天神町三〇番地五
編集委員 猪原靖彦・深田真市・金川美友・谷口美紀
（一財）鳥取県労働者福祉協議会 第317号
TEL (0857) 27-4188